



留学のそれが知りたかった！

先輩たちの  
留学生活大解剖！！

はじめまして！私達は理工学部・理工学研究科が実施する「ALL DOSHISHA 共修プログラム」の一環として、同志社大学からの派遣留学生を増やす活動を行なっています。このプログラムでは、理工学部生が外国人留学生と共に、課題の解決に向けて企画を立案、実行します。私達は学生からの視点で留学情報を発信する周知型セミナーと、より詳しい留学情報を得たい学生を対象とした留学相談会を開催しました。参加者以外の学生にも興味をもってもらうために、留学セミナーと相談会の内容をこのパンフレットに詰め込みました。皆さんの留学の第一歩となれば嬉しいです。

## 植山 賢一

学科・専攻：化学システム創成工学科・応用化学専攻  
留学先：エコール・サントラル・マルセイユ (ECM)  
留学期間：2016年9月1日～2018年8月31日



### 授業・テストについて

授業時間は8:00～18:00です。1年目は、プログラミング、経済学、物理、機械、数学、信号処理・波動、化学などの専門分野と、共通科目として、スポーツ、言語、プロジェクトなどの授業を受けました。2年目は、物理、機械、数学、プログラミング、化学、流体力学などの専門分野と、共通科目として電気、人間科学、言語を学びました。

他のECでは追試試験などの救済措置がありますが、ECMでは一切ありませんでした。しかし、留学生であればテスト時間が延長されるといったハンデが与えられました。

### 留学先での生活

マルセイユはフランス南部に位置しており、アフリカ大陸に近いので、黒人や黄色人種など多様性に溢れています。また地中海の近くでもあるので、陽気な人が多いです。ECMは授業時間が長く、帰宅後は授業の復習やフランス語の勉強をしていたので、平日に遊ぶ暇はありませんでした。しかし、週末になると友達と家に集まって夜まで楽しく話したり、家を借りて50～60人でパーティーをしたこともありました。

最初は、1人暮らしをしていましたが、2年目からはフランス人の友達とシェアハウスをしていました。1人の時よりもフランス語に接する機会が格段に増え、このころからどんなフランス語でも理解できるようになりました。

日本でフランス語を学ぶよりも現地のほうがカジュアル

なフランス語を学ぶことができました。

### 授業・テストについて

授業時間は8:00～18:00で、1コマ2時間です。授業形態はセミナー、実験、大講義などで行われます。テストによっては飲食物持ち込み可で、4時間のテストもありました。留学生のみ、1年目の筆記テストではフランス語辞書の持ち込み、テスト時間の延長、1年に1回追試試験を受けることができる、といったハンデが与えられました。成績は日本と同様、小テスト、筆記テスト、プレゼンで判断されます。しかし、筆記テストでは満点の50%以上かつ総合評価も50%以上

### 日本の学生との違い

ECMの学生の授業への意識は日本の学生よりもはるかに高いです。授業中居眠りをする人はまず存在しませんでした。どんなに簡単な質問でも先生に気軽に質問していました。また、勉強への集中力に驚きました。勉強するときとそれ以外の場面の切り替えをしっかりと行っているのが印象的でした。

### 留学を考えているあなたへ


奨学金は絶対に取得してください。私はトビタテ留学JAPANから留学費用の支援を受けていました。そして、語学力はやはり必要です。教科書では学べない表現がたくさん存在するので、同志社大学に在籍する留学生と友達になり、言語を教えてもらうことをお勧めします。また、日本文化の知識と料理の作り方を留学先の言語で伝えられるようにしましょう。実際に現地で友達とのコミュニケーションのきっかけになりました。そして留学先についての基礎となる知識（文化、政治、経済など）を学んでおくことも大切です。ECMでは多分野の授業を受けたので、これらの知識はとても役に立ちました。



## 井上 拓也

学科・専攻：エネルギー機械工学科・機械工学専攻  
留学先：エコール・サントラル・リール (ECL)  
留学期間：2016年9月1日～2018年8月31日





取らなければなりません。フランス語に慣れていない1年目はかなり大変でした。2年間で、数学情報、電気電子、物質科学、機械工学、社会学、経済学、経営学、簿記、法律、文化コミュニケーション学、言語学（英語、仏語）など、自分の専攻以外の分野についても幅広く学びました。また、フランス人とチームを組み、企業との共同プロジェクトに参加しました。

1年目は1か月のインターンシップ、2年目は3か月以上のインターンシップを経験しました。インターンシップ先は日本と同様に自分で探し、申し込まなければなりませんでした。私はドイツの宇宙物理学研究所でインターンシップを行いました。

## 留学先での生活

ECLでの留学生の割合は30%と高く、その中でも中国人やブラジル人が多いです。留学生を支援する部活動があり、運動を目的とした合宿も行われます。また、リールでは日本人の会があり、リール在住の日本人留学生と情報を共有していました。そこでは前年度に留学されていた方の家具を皆で分配し、貰うことが出来ました。また、フランス人と日本人の交流の場が月に数回設けられました。これらは留学生活で大きな心の支えとなりました。週末は時々パリへ遊びに行きました。日本とは異なり、フランスでは6週間に1回、1週間のバカンスがあります。夏季休暇は1ヶ月半ほどでした。この期間に旅行に行くこともできます。

## 留学費用

留学中は1部屋8畳の学生寮で生活をしていました。家賃は毎月4~5万円、食費は外食を含めて毎月2~3万円、日用品の購入や日帰り旅行に毎月2~3万円でした。毎月10万円あれば生活はできますが、旅行や外食をするのは厳しいです。渡航費や保険加入費などを含めて2年間で総額300~400万円ほどでした。

トビタテ留学 JAPAN から渡航費に20万円、生活費に毎月10万円分の支援を受けていました。トビタテ留学 JAPAN 以外では、フランス政府からの奨学金制度など、いくつかの給付型奨学金が存在します。

## 留学を考えているあなたへ

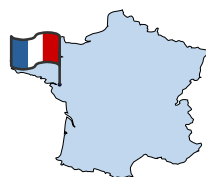
異なる文化や言語で生活することはストレスが溜まります。日本では頼れる人がすぐ近くにいて助けてもらえますが、海外ではそういう訳にはいきません。私は留学中に何回も心が折れそうになりましたが、その度に何故留学をしようと決心したのかを自分自身に問いかけていました。これを成し遂げるまでは帰れない、という強い意志をもって留学していたため、色々な困難を乗り越えて今があります。留学の目的を明確にし、強い意志と覚悟を持ちましょう。それが皆さんの心の支えになります。

## 松本 匡平

学科・専攻：機械システム工学科・機械工学専攻  
留学先：エコール・サントラル・ナント (ECN)  
留学期間：2016年9月1日~2018年8月31日

## 留学費用

日本からフランスへの往復の航空券が約15万円、家賃を含めた生活費が毎月約9万円、他にも引っ越し代や旅費など2年間で総額400万円ほど使用しました。



## 授業・テストについて

海洋工学や流体について学びたいと考えていたので、2016年9月~2018年9月までの2年間、ECNに留学することを決めました。授業時間は8:00~18:00です。1年目は、熱力学、流体力学、材料力学など同志社大学の機械系の学生が受講する幅広い工学の勉強をしました。また、長期インターンシップを経験しました。ダブルディグリー制度ではインターンシップは必修です。インターンシップを行う会社は自分で決めることができました。2年目は選択した専門科目(推進・輸送)の勉強をしました。

前半は専門のコースであるエンジンについての授業を受け、残り半年はエンジニアリングのインターンシップを行いました。2年目のインターンシップ期間は1年目より長く、専門的な内容であるため、とても難しかったです。

このようにエンジニアを養成する大学は、将来エンジニアとして働くことを重要視したカリキュラムを採用しています。また卒業の際は、レポートを提出し、発表する必要があります。



## 留学で得た成果

私は学部時代にフランス語入門 12 を受けていただけの初心者でしたが、帰国後に DELF というフランス語の試験の B2 を取得することが出来ました。

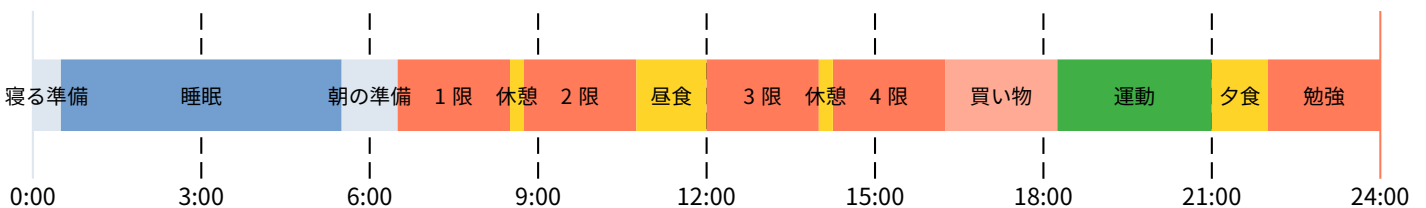
日本の大学では、理論だけを学ぶことが多いですが、ECN では理論だけではなく、実際にその理論をどのように使うのかを学びます。そのため帰国後も、そのようなことを意識するようになりました。また、厳しい留学を乗り越えた経験から、以前より色々な物事に挑戦するようになりました。

## 留学を考えているあなたへ

同志社大学での授業を真面目に受けましょう。私はフランス語が全く出来なかったのですが、日本で得た基礎知識に助けられていました。また、現地の留学生や先輩仲間に積極的にコンタクトをとることがとても大切です。情報収集は一人よりも、多くの人から得る方が圧倒的に早いです。そして何を求めて留学するのかをしっかりと考えてから留学をしましょう。2年間の留学を終えた後、自分の目標を達成して理想の成長を遂げる、というような思いを持つことがモチベーションを保つことに繋がります。

## Q & A

### Q1. 向こうでのスケジュールを教えてください！



上図には通常のスケジュールを示しています。しかし、インターンシップ期間では、通常授業の課題やテストに加えて、履歴書の作成や研究機関との連絡を行わなければなりません。また、インターンシップ期間後には、フィードバックとしてレポートの作成と発表の準備も行う必要があります。他にも授業評価の対象であるプレゼンテーションの用意もあります。

### Q2. 留学先でのテストはどうでしたか？

テスト勉強は日本と同じように、過去問や教科書を使って勉強しました。しかし、専門用語が多いため、日本にいた時より多くの時間を費やしました。長時間に及ぶテストもありましたが、いざ受けてみると短く感じました。筆記テストでは、留学先の言語で記述しなければならないものもあり大変でした。また、普段の勉強が大変な分、バカンスを利用して友達と様々な国に旅行することで気分転換をしていました。

### Q3. 出願から出発までの具体的なプランが知りたいです！

2回生秋学期に出願、書類選考、語学能力試験、総合面接があります。3回生春学期に協定校への推薦、協定校との面接があり、最終選考結果が通知されます。合格が通知されたら、ビザの予約、必要であれば現地の語学学校の申し込み、航空券・アパートの確保、単位互換の確認（各学部の教授と単位互換を出来るのか相談する必要があります。）、戸籍謄本の翻訳、海外保険の加入、薬・日用品の買い出しや予防接種などの準備を行います。また下宿の方は、日本のアパートの解約などもしなければならぬので、準備は早めからしておきましょう。

参照：  
pexels.com から Roberto Nickson · Enrico Perini · Daria Shevtsova · Guillaume Hankenne  
© OpenStreetMap contributors, openstreetmap.org  
Maps made with Natural Earth. Free vector and raster map data @ naturalearthdata.com

このパンフレットは理工学部・理工学研究科が実施する ALL DOSHISHA 共修プログラムの一環で作成しました。パンフレット作成に多大なご協力を下さいました皆様方にこの場を借りて御礼申し上げます。

理工学部・理工学研究科 ALL DOSHISHA 共修プログラム  
2019 年度実施プロジェクト” Increase student awareness for foreign study programs/possibilities”  
2019 年度プロジェクトメンバー：松尾 寧々・大江 志菜・金中 茜音・ Mischa Aleksey Krueger

2019 年度 ALL DOSHISHA 共修プログラム  
理工学部・理工学研究科事務室  
電話番号：0774-65-6200  
E-Mail: jt-istc@mail.doshisha.ac.jp

留学ビデオ  
こちら！

留学先での生活の様子を  
動画で閲覧できます。



パンフレットの  
PDF はこちら！

